

学習支援をもっと活発に

高いカレッジ生への期待 支援者増やす方策は

グループわが、学習支援を始めて5年。いまや活動の大きな柱になっていますが、支援者が思うように増えない現状をどうするか、特別支援の要請急増にどう応えるか、といった課題も出てきています。子どもたちを育てるためのお手伝いは、シルバー世代にふさわしい活動分野だといわれます。シルバーカレッジで学習支援の輪を広げるにはどうしたらいいのか。学習支援委員会のメンバー3人にじっくり話し合ってもらいました。

座談会

加藤勇治（学習支援委員長・美10）
川上弘一（福12・算数、特別支援）
宮崎芳江（生12・算数、特別支援）
司会＝鬼村信行（国14・算数）

学習支援のニーズは多い

わの会員でも、学習支援を知らない人は随分多い。現状はどうなっていますか？

加藤 似たようなものに、校庭の掃除とか、子供たちの見守りをする「学校支援」があります。学習支援は、算数・理科などの指導補助。それと近年、要望が多いのが特別支援。担任の先生を助けて、障害のある子供たちの面倒をみるものです。

宮崎 今は、ハンデのある子供たちも普通学級で学ぶようになって、担任の先生は大変なんです。何人もいると、とても面倒をみきれず、ボランティアの支援者がいるのです。

加藤 そうですね。学習支援のニーズは増える一方です。特にシルバーカレッジからの支援者は歓迎されているようで、年々、要請校が増えています。21年度は55校から要請が来ており、43校に行っています。一方、支援登録をされている方は96人いますが、実働は約50人にすぎず、これ以上の要請には応えられないのが実情です。

川上 特別支援だけをみると、もう少し深刻で、要請43校に対し、実施できたのは24校でした。登録してても活動していない方が相当（約4割）あり、ここが一つの問題点です。

一度体験すればできる

支援者をふやす何か良い方策は？

宮崎 知人などに働きかけをしているが、支援をやってもいい、という人が少ない。「できるかどうか不安」「しんどそう」といった理由です。むずかしいことはありません。一度でも体験してもらったら、「これならできる」と、思ってもらえますよ。

川上 カレッジ在学中に、もっとPRして現役生に意識を持ってもらう。あるいは地域活動を通じて、元先生や元塾教師に働きかけることも有効では。朝、見守りをやって、昼は学習支援をやる、といったこともありです。気軽に考えてほしいですね。

加藤 カレッジに入るのは社会貢献をするため、という自覚をもってもらう必要がある。ボランティア活動をカリキュラムに組み込むべきでしょうね。

川上 当然でしょう。再び学んで...が校是ですから。学習支援でなくても、どんなボランティアでもいいんです。（一同うなづく）

宮崎 「情報ぎやらりー」やカレッジの情報誌、ホームページを通じて、ボランティアや学習支援活動の楽しさを呼びかけることも必要でしょうね。

加藤 わは、NPOだからカレッジ卒業生でなくても会員になれる。もっと幅広いリクルートも必要ですね。それと支援者の高齢化は年々進んでいるので、常に新規登録者をふやさないと実働人員は減ってしまいます。希望者に体験学習を採り入れるのもいいかと....

ムリせず、あせらず、継続を

グループわの事業として学習支援を始めた中沢保夫さん（前・学習支援委員会委員長・音9）は次のようにアドバイスしています。

いろんな分野で活躍してきたカレッジ生にとって、学習支援はうってつけの活動だが、ムリしないで長く続けることが大事です。特別支援はなかなか手をあげる人がいない。15校なり、20校なり、枠を決めてやったらどうかな。特別支援には交通費だけでなく、報酬的なものも加味してあげたら、と思います。グループわは、支援希望者と学校側の橋渡し（マッチング）が役目です。すべてうまく行くとは限らない。あせらず、ムリせず、少しずつ支援者を増やすしかないでしょう。